

馬場ひでゆきの活動日誌

No.37

2025年夏の参議院議員選挙に向かって

全力宣言

上越後援会発足!

打越さく良



9月14日、市民プラザで来年夏の参議院議員選挙に向けて打越さくらさん（現参議院議員）の上越後援会発足会が開かれ、私も参加しました。

● 勝手連的な活動を!

まず、後援会設立の世話人として、板倉区の武藤邦夫さんが設立の趣旨を説明。活動の方向性については「打越さんは、立憲民主党所属議員ですが、上越地域は、森ゆう子さんの選挙以来、市民と野党の共闘で闘ってきた歴史があります。私たちの会も、勝手連的な方式で政党の枠を超えてやっていきたい」とご説明されました。

私も、2016年の参議院議



集会には、元県議の近藤貞夫さん（写真中央）も参加。力強いご意見番が打越さんを支えます。

員選挙以来、市民連合・上越の一員として市民と野党の共闘を担ってきました、だから、この発言には、私たちの活動を評価してもらったという思いがして嬉しく思いました。

次に梅谷守衆議院議員の代理の杉山さん、県会議員の牧田さん、土田さん、そして私が、それぞれ登壇して発言しました。

● 打越さんは周りを明るくする

私は、「ここは5年前に打越さんが出馬した時、市民連合・上越で支援集会をしたときの会場です。その集会の時の講師が有田芳生前参議院議員で、私が有田さんを上越妙高駅に車で迎えに行きました。車中、有田さんは、『打越さんを推薦したのはボクなんだ、打越さんには、ボクの名誉棄損事件の弁護士に入ってもらっているんだけど、打越さんが中にいると雰囲気は明るくなるんだよね』と言ってました、まさにその通りの人でした。」と当時のエピソードを紹介しエールを送りました。

● 新人議員でも頑張れる!

最後に打越さんが決意表明。「自分はDV事件や児童虐待事件を弁護士として扱ってきた。政治と弁護士の世界とは違うこ

とが多いが、『誰一人取り残さない、しっかり耳を傾ける』というのは弁護士の仕事も政治家の仕事も同じと考えている」

「コロナ時の定額給付金は、当初、世帯に対して給付することになってた。私が、それではDV被害者らが救済されない」と訴えて、結果としては個人に対する給付も認められるようになった。こんな感じで1年目の野党議員でもコツコツ頑張って成果を出しています。自民党の議員が私を『実績はないが、人柄はいい』と言っていたそう。とごあいさつ。 新人県議の私にとってもお手本にすべき話でした。打越さんには頑張ってもらいます。私も応援します。

最低賃金決まる
新潟県 985円

10月1日から、新潟県の最低賃金は985円になります。ちなみに前年度は931円、54円のアップになりました。最低賃金ギリギリで働いていた方にとっては、一か月の給与が、54円×8時間×20日（一カ月の労働日数）＝8640円アップすることになります。

9月定例会が始まる

県議会の9月定例会が、9月24日から始まります。詳細は、随時この活動日誌で報告します。

次回号までの期間の議会予定(会期は10/15まで)			
9月24日	火	午後1時~	本会議(開会)
9月26日	木	午前10時~	代表質問
9月27日	金	午前10時~	一般質問
9月30日	月	午前10時~	一般質問
10月1日	火	午前10時~	常任委員会
10月2日	水	午前10時~	常任委員会
10月3日	木	午前10時~	常任委員会



私の推し本その17

高史明 著 「生きることの意味 ある少年のおいたち」(ちくま文庫)

私の中学校の図書室は、専門の司書さんもおらず乱雑に本が置かれていただけでした。それでも、休み時間にボクは仲間と遊ぶこともなく、その図書室でひたすら時間をつぶしていました。その時に出会ったのがこの本です。

最初読んだときの感想ですが、暗いんです。作者が在日朝鮮人二世で、太平洋戦争時代の自叙伝。生活していた場所が下関市内の朝鮮人部落のハモニカ長屋。隣家との仕切り壁は木板と古新聞紙、隣の声は筒抜け。よくわからないけど、自分より貧乏な生活なんだなあとおぼろげに感じました。

その後、高校時代に高校教科書検定に対する近隣諸国の批判、大学に入り近現代史を学んだりして、少しずつ、この本の背景事情ががわかってきました。時々思い出して読み返し、その都度、新しい発見をすることの繰り返し。だから、暗いんだけど、とつても深みのある本なんです。

当時は創氏改名の時代。作者の本名は「金天三」。だけど、学校では「木下」と呼ばれていた。ところが、小5になったときの担任の阪井先生は、堂々と「金」と名乗れと言いました。阪井先生に関わる話は泣けてきます。自分の名前や民族に誇りをもてと。是非読んでみてください！



市は住民のために汗を流せ！
来賓としてあいさつした宮越馨市議は、「私が上越市長のとき、国立高田病院の移譲を受けてセンター病院を設立させた。労災病院についても、上越市が労働者健康安全機構と交渉するべきではないか。今は、上越市は県や国の言いなりだ」と上越市の姿勢を批判しました。

会場からは、「上越全体の問題なのに、住民の皆さんは、ただ何が問題なのかわかっていないのではないか。署名にに応じてくれたのはお年寄りが多かった。若い人たちが巻き込んだ運動をしてほしい。」という意見がありました。
●2億5千万円の税金無駄遣い？
また、上越市が今議会にて提案した、労災病院の歯科口腔外科機能を上越地域医療センター病院に移行するため事業費が、話題になりました。
上越市は、今回、歯科口腔外科の移設にあたってセンター病院を増設するために約2億3千万円を計上しました。ところが、上越市は、センター病院を数年後に全面改修する計画をしています。
つまり、歯科口腔外科を増室しても、数年でそれがすべて壊され、2億3千万円がムダになってしまうことになりました。
これに関しては、会場からは「増設などせずに、センター病院への移行のための数年間を、労災病院で歯科口腔外科の診療を続けられないのではないか。そういう交渉を市がやればいいのか。何もしていない」という批判的意見がありました。本当にその通りです。
集会は、引き続き署名に取り組んでいくことを確認しました。

私は、署名受け渡しに立ち会った者として参加、先日の上越地域医療構想調整会議での議論の様子を紹介し、次の通り発言しました。「県が机上で構想を立てても、医療現場で連携がうまく行くとは限りません。これからも地域住民の声を届けることが大切です。運動を今後も継続し、広がるように共に頑張りましょう」

会場からは、「上越全体の問題なのに、住民の皆さんは、ただ何が問題なのかわかっていないのではないか。署名にに応じてくれたのはお年寄りが多かった。若い人たちが巻き込んだ運動をしてほしい。」という意見がありました。
●2億5千万円の税金無駄遣い？
また、上越市が今議会にて提案した、労災病院の歯科口腔外科機能を上越地域医療センター病院に移行するため事業費が、話題になりました。
上越市は、今回、歯科口腔外科の移設にあたってセンター病院を増設するために約2億3千万円を計上しました。ところが、上越市は、センター病院を数年後に全面改修する計画をしています。
つまり、歯科口腔外科を増室しても、数年でそれがすべて壊され、2億3千万円がムダになってしまうことになりました。
これに関しては、会場からは「増設などせずに、センター病院への移行のための数年間を、労災病院で歯科口腔外科の診療を続けられないのではないか。そういう交渉を市がやればいいのか。何もしていない」という批判的意見がありました。本当にその通りです。
集会は、引き続き署名に取り組んでいくことを確認しました。

9/15 署名提出報告会開催



上越地域の医療を守る会が14740筆の署名を新潟県福祉保健部に届けました。その署名活動の報告会が、9月15日、市民プラザで開催されました。

会員や署名集めに奔走された市民・団体の皆様が集まり、署名活動の労をねぎらい、今後の展望を語り合いました。

会場からは、「上越全体の問題なのに、住民の皆さんは、ただ何が問題なのかわかっていないのではないか。署名にに応じてくれたのはお年寄りが多かった。若い人たちが巻き込んだ運動をしてほしい。」という意見がありました。
●2億5千万円の税金無駄遣い？
また、上越市が今議会にて提案した、労災病院の歯科口腔外科機能を上越地域医療センター病院に移行するため事業費が、話題になりました。
上越市は、今回、歯科口腔外科の移設にあたってセンター病院を増設するために約2億3千万円を計上しました。ところが、上越市は、センター病院を数年後に全面改修する計画をしています。
つまり、歯科口腔外科を増室しても、数年でそれがすべて壊され、2億3千万円がムダになってしまうことになりました。
これに関しては、会場からは「増設などせずに、センター病院への移行のための数年間を、労災病院で歯科口腔外科の診療を続けられないのではないか。そういう交渉を市がやればいいのか。何もしていない」という批判的意見がありました。本当にその通りです。
集会は、引き続き署名に取り組んでいくことを確認しました。



9/15 稲刈りしました

9月15日、中ノ俣の角間の棚田に行って、稲刈りの手伝いをしてきました。これは、以前にご紹介した(日誌No.24)かみえちご山里ファン倶楽部の主宰する「棚田学校」の企画です。
当日は雨の予報だったので、午前中は雨も降らず、9時から12時までの3時間、稲を鎌で刈り、刈り取った稲をワラで束ね(これが難しい)、それをはさに架けました。

子どもの頃、稲を束ねることにすらできず、はさ木の回りをうろうろしていたことを覚えています。今回の作業でやっと自分も一人前になれたと思いました。スタッフの方々には感謝です。
棚田学校では、これまで田植え、田の草取り、畔の草取り、角間用水の清掃など、現地に向き「学習」してきました。また、地域の小学校を残そうという地域の集まりにも参加しました。中山間地の農業、農村の課題を肌で実感しました。今後は、それを政治に繋げて、上越地域の方々の今後の生活のために活かしていきたいと思えます。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-babahideyuki@wind.com.ne.jp